

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

Contents

四国支部設立と講演会開く	_____	1
JN協会5年の歩み	_____	2
JN協会5年の歩み	_____	3
JN本誌2006年版発行、名簿	_____	4



源平古戦場、那須与一が海上に浮かぶ平家の軍船の扇を射抜いたという故事で有名な屋島。栗林公園などと並ぶ高松市の観光名所(高松市提供)

巻頭言

フォーラム「大四国圏の活性化と将来展望」 JN協会四国支部設立総会の記念に、高松で開催

支部長に梅原JR四国会長

全国8番目のJN協会支部が、四国に誕生

JAPAN NOW観光情報協会(東京・松尾道彦理事長)は、全国8番目の支部として四国支部を設立することになり、4月14日午後2時から高松市の「ウェルシティ高松」で、支部設立総会及び記念フォーラム「大四国圏の活性化と将来展望」(観光立国フォーラムin高松)を開く。

四国観光立国推進協議会(会長・梅原利之JR四国会長)との共催により四国運輸局が後援する。



支部総会では松尾理事長、梅原会長の主催者挨拶のあと、支部長に梅原・JR四国会長(写真)が就任し、挨拶する。引き続き来賓の真鍋武紀・香川県知事、高松市の増田昌三市長、四国運輸局の木内大助局長、四国経済連合会の大西淳会長、四国経済産業局の塚本芳昭局長が挨拶する。

記念講演会開く

講師に、福川伸次氏ら3人

支部設立総会のあと午後2時30分からフォーラムに移り、元通産事務次官の福川伸次氏(機械産業記念事業財団会長)が「新日本様式の導入と四国経済の活性化」をテーマに基調講演を行う。続いて国土交通省の大西珠枝・大臣官房審議官が「観光立国と四国観光の現状と将来」、さらに香川大学の井原健雄・名誉教授が「地域経済の発展と観光交流」につ

いて講演する。午後5時からは来賓や講師を囲んで立食懇親会を開き、午後6時閉会する予定。

中国、東北へと、さらに支部設置へ

JAPAN NOW観光情報協会は、「都市再生・観光振興・環境保全」を活動目的に5年前に東京都知事から認証されたNPO法人で、情報紙「JAPAN NOW」の発行、ホームページの開設による情報発信や講演会、シンポジウム、フォーラムの開催、見学会を行っている。主要経済圏に北海道、北陸、中部、神戸、九州など7支部を開設し、全国展開を進めている。中国、東北支部も開設予定。

四国電力、JR四国が団体会員に

四国支部設立に協力してきた四国旅客鉄道(JR四国)、四国電力がJN協団体会員として、JN協会の活動を支援してくれることとなった。

JN協会が掲げている「環境・都市再生・観光振興」重視の趣旨に賛同いただいたもので、すでに多くの電力企業、鉄道会社が団体会員として、名を連ねている。

ネスレ・ジャパン社が緑茶を提供

JN協会の団体会員であるネスレ・ジャパン社が、4月14日の四国支部設立総会、講演会の際、緑茶200本を提供してくれる。

同社は、これまでも各地での講演会、シンポジウム開催に当たり、差し入れを行っている。

JN協会5年の歩み

2001年4月発足したJAPAN NOW観光情報協会は、6年目に入り順調に活動を展開しています。四国支部設立にあたり、これまでの歩みを振り返ってみます。

JN協会の活動目的

21世紀は世界的な観光交流が拡大し、「観光の世紀」と言われています。政府も官民一体で振興に取り組んでいます。JAPAN NOW観光情報協会は平成13年4月に「都市再生・観光振興・環境保全」を目的としたN

PO法人として石原・東京都知事から認証され、活動しています。日本が観光立国として発展するためには、従来の観光振興だけでは限界があり都市の再生、活性化による地域経済の振興や環境保全が必要です。

当協会はこうした理念のもと、市民レベルの「第三の社会セクター」(NPO)の立場から既存の「第一の社会セクター」(国、自治体など公的機関)や観光、鉄道、航空、電力、ゼネコンなどの「第二の社会セクター」(営利法人)が発信する都市再生・観光・環境保全情報の補完に取り組み「賢い旅行者・消費者」の育成に務め、国や地方自治体、経済団体への提言

JN支部の設立

- ・新宿支部(2001年4月、片山文彦・花園神社宮司が支部長)
- ・北陸支部(2002年10月、水野卓哉・北陸鉄道会長が支部長)
- ・立教支部(2003年12月、支部長は学生会員の持ち回り)
- ・九州支部(2004年3月、長尾亜夫・西日本鉄道社長が支部長)
- ・中部支部(2004年7月、須田寛・JR東海会長 = 当時 = が支部長)
- ・神戸支部(2005年3月、岩田弘三・神戸商工会議所副会頭が支部長)
- ・北海道支部(2005年11月、JR北海道会長の坂本眞一氏が支部長)
- ・四国支部(2006年4月14日、JR四国会長の梅原利之氏が支部長に就任予定)



写真上(発足メンバー) 下は(神戸支部発足総会)

JN協会の活動実績(講演会)

- 第1回:「国際観光を楽しむ」 平成13年10月22日(月) 基調講演:向山秀昭氏(国際観光振興会長)
- 第2回:「都市の活性化と国際観光」 平成14年1月31日(木)
講演者:須田寛氏(東海旅客鉄道会長)、カトリーヌ・オーデン氏(フランス政府観光局長)
- 第3回:「都市の交流と国際観光」 平成14年5月21日(火) 講演者:羽生次郎氏(国土交通省国土交通審議官)
- 第4回:「北陸新幹線と地域振興」 平成14年10月4日(金) 於:金沢市 講演者:松尾道彦氏(鉄道建設公団総裁、当協会副理事長)
- 第5回:「内外経済事情」 平成14年11月21日(木) 講演者:渡辺 修氏(日本貿易振興会理事長)
- 第6回:「激動する航空業界の現状と今後」 平成15年5月30日(木) 講演者:野村吉三郎氏(全日本空輸会長)
- 第7回:「江戸文化と大道芸」 平成15年 8月10日(日) 於:新宿・花園神社 シンポジウムのパネリスト:
片山文彦氏(JN協会新宿支部長)ら4名。
- 第8回:「観光立国と箱根の魅力」 平成15年9月4日(木) 基調講演者:中村徹氏(日本観光協会会長)。
討論者:山口昇士(箱根町長)、金澤悟(国土交通省観光部長)、福川伸次(電通顧問)の各氏。
- 第9回:「九州新幹線の開業に向けて」
平成16年3月1日(月) 於:ホテル日航福岡 講演者:高山博文氏(鉄道運輸機構九州新幹線建設局長)
- 第10回:「日本経済の再生と観光立国」 平成16年5月27日(木) 講演者:福川伸次氏(元通産事務次官)
- 第11回:「中部国際空港の開港と観光交流」および「愛・地球博の成功を目指して」
平成16年7月15日(木) 於:名古屋市 講演者:平野幸久氏(中部国際空港会社社長)、
中村利雄氏(万博協会事務総長)
- 第12回:「観光立国と国の安全」 平成16年12月16日(木) 講演者:国松孝次氏(元警察庁長官、前スイス大使)
- 第13回:「21世紀は大名古屋圏の時代」 平成17年1月25日(火) 於名古屋市・銀行協会ホール
基調講演:福川伸次氏
パネラー:奥野信宏、安原敬裕、須田寛、水尾衣里の各氏
- 第14回:「サッカーと観光立国」 平成17年5月24日 講演者:鈴木昌・リーグチェアマン(JN通常会員総会のあと) 於ホテルKKR
- 第15回:「大九州圏観光フォーラム2005」平成17年9月21日(水)。福岡市の西鉄グランドホテルで。渡辺修・ジェトロ理事長ら5人講師
- 第16回:「21世紀は大北海道圏の時代」平成17年11月08日(火)。講師:電通顧問の福川伸次氏(元通産事務次官)、
照明デザイナーの石井幹子氏、国土交通省総合観光政策審議官の柴田耕介氏ら4人。

JN協会5年の歩み

JN協会の活動実績（見学会）

- 第1回：山梨県都留市の山梨リニア実験センター 平成13年11月8日(木)。
JRマグレブ・リニアカーの試乗会。丹羽理事長以下15名が参加、
時速450キロを体験。
- 第2回：東京電力柏崎刈羽原発など。平成14年8月24日(土)、25日(日)
参加者25名。協力：原子力発電技術機構
- 第3回：石川県・能登空港 平成15年7月8日(火)
7月7日開港した能登空港見学。丹羽理事長、水野・北陸支部長ら
10名が参加。
- 第4回：都留市リニア実験センター 平成15年10月8日(水)
松尾副理事長や電力、ゼネコン、鉄道などの団体会員ら30名参加。
時速500キロを体験。
- 第5回：横浜市みなとみらい線 平成16年1月21日(水)
2月1日開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら30名が参加。
- 第6回：九州新幹線(鹿児島中央駅～新八代駅) 平成16年3月1日(月)
3月13日の開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら20名が試
乗会に参加。
- 第7回：開港前の中部国際空港 平成16年7月15日(木)。
松尾理事長ら約20名が参加。
- 第8回：建設が進む神戸空港 平成17年3月17日、松尾理事長ら20名が参加。
- 第9回：開業前の「つくばエクスプレス」試乗会。平成17年7月27日、11名参加。



リニア実験線



開港前の中部空港管制塔で

JN協会の活動実績（イベント）

【大道芸シンポ】 2003年8月10日午後5時30分から、江戸開府400年事業に協賛し「市民 手づくりの江戸東京まつり」を、東京・新宿の花園神社で開催。源吾朗さんの大道芸披露、今村昌平監督の映画「ええじゃないか」のさわりを上映、それにまつわる大道芸についてシンポジウムを落語家・古今亭菊輔さんが司会。100人が参加し江戸情緒を楽しんだ。
なお8日には、ロボット博士で有名な橋本周司・早稲田大学教授の講演「ロボットが宗教を変えられるか」が行なわれた。主催は花園神社。

【国際交流】 2004年10月23日、JN協会と富山県新湊市がイタリアのティボリ市長と助役招待、新湊市での「新湊産業海鮮まつり」に参加、保育園児らに迎えられる。真ん中は新湊市長。



2004年10月25日、東京・プレスセンターで「ティボリと新湊の挑戦」と題する国際観光シンポジウムを開催した。マルコ・ヴィンチェツィ・ティボリ市長、分家・新湊市長、須田・JN協会副理事長、鷲頭・国交省観光審議官、大島悦子の各氏が「イタリアの世界遺産都市と観光立国の街づくり」について討論。参加者約150人。

平成18年中に、イタリア・トリノの市長との交流を予定し、準備を進めている。

JN協会の活動実績（研究会）

国土交通、旅行、エネルギー問題、都市再生、環境の5研究会を開設。副理事長を座長とし研究活動を実施。
(1)「観光の価値・評価」の研究会 2002年1月25日～2002年11月20日まで9回。(2)「旅と危機管理」セミナー 2003～2004年末で9回。最終回は2004年12月16日、国松孝次元警察庁長官を迎え「観光立国と国の安全」という題で、講演。
(3)「観光立国セミナー」 2004年～2006年実施中。会員だけでなく、関心のある方の参加を歓迎。いずれも、製本しJN協会に保存。会員企業、個人会員の閲覧は御自由にどうぞ。

JN協会の活動実績（提言）

JN協会は提言も積極的に行っている。平成14年7月リニア中央新幹線の実用化について小泉首相に提言した。丹羽理事長(当時)は、平成15年1月東京駅周辺に「観光総合案内センター」の開設を、平成15年10月には「江戸城再建」を提言し、話題となった。今後とも研究会活動の成果を踏まえ、積極的に「観光立国」等に関する提言を行う予定である。

「日本」を、いきいきと伝える

日本唯一、ホテル客室常備の文化情報誌「JAPAN NOW2006年度版」発行

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいていた「JAPAN NOW」誌は、2005年度版より日英全文対訳となり、学校教材としてもますます高く評価されています。3月末に出来上がった2006年度版は、マンダリンオリエンタルホテル東京、グランドハイアット東京など、東京を中心に新たに開業したラグジュアリーホテルを含む110館55,000室の客室に常備されます。

日本文化の再発見を通じ新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本のいまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。2006年度版は、日本人の伝統的な美意識を時間という視点からとらえなおした「ときとうつろい」と、現代の日本がいかんしてつくられたかを問い直す「近代の面影」という2つの特集を中心に構成されています。

1部2000円（送料別）で購入できます。お問い合わせは（株）ジャパン・ナウへ。
電話・FAX 03-3536-1751



会員名簿

- 名誉顧問** : 松山善三(映画監督)
理事長 : 松尾道彦(日本海事財団会長、前日本鉄道建設公団総裁)
顧問 : 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング相談役)
副理事長 : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(小田急電鉄顧問)、橋元雅司(元国鉄副総裁)、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)、横山善太(株JALUX特別顧問) = 予定
支部長 : 片山文彦(新宿支部)、水野卓哉(北陸支部)、田久保万里夫(立教支部)、長尾亜夫(九州支部)、須田寛(中部支部)、岩田弘三(神戸支部)、坂本眞一(北海道支部)、梅原利之(四国支部 = 予定)

【団体会員】(2006年04月14日現在)

(株)朝日ネット、(株)アドバン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、(株)井六園ワールド、岩田建設(株)、(株)エスシー・マシーナリ、(株)H K I アクシス、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急建設(株)、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、国光施設工業(株)佐川サポートサービス(株)、三協アルミニウム工業(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)JR四国(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、(株)ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、総合パーキング建設(株)、セントラルリーシングシステム(株)、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)大成サービス(株)、大成設備、(株)大成コーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高尚、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中部電力(株)、ティーシートレーディング(株)東京支店、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トーヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、ネスレジャパングループ、箱根町(神奈川県)箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、福岡空港ビルディング(株)、富士機材(株)、藤長電気(株)富士通(株)、ブラネットワークス(株)、(株)フィールドサービス、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマリックス、マイナミホールディングス(株)、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)ミルックス、(学)森谷学園、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)US EN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

JAPAN NOW

観光情報協会

東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page <http://www.japannow.org>

発行人：白澤照雄（JN協会事務局長）

編集長：加納 隆（JN協会理事）

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、
地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

四国支部が設立され、JN協会当面の目標である「全国10支部」に、また一步踏み出した。お蔭で編集子は、追い立てられ続ける。4月は臨時の「四国特集号」そして、その内容を伝える4月号、続いて「定時総会特集号」そして総会の模様等を報告する5月号。

2ヶ月の間に4回の発行は、年間6回の予定で組んだ予算をはるかにオーバーしそう。協会の財務を悪化させる一因となる。理事長はじめ財務担当者、ごめんなさい。それと、常連執筆者にも、ご迷惑をかける。タダ原稿なのに、編集者からは「ヤイノやいの」と催促される。これまた「ごめんなさい」である。4月号で立教支部のページが消えるが、これも、その影響。5月には復活する。(加納)